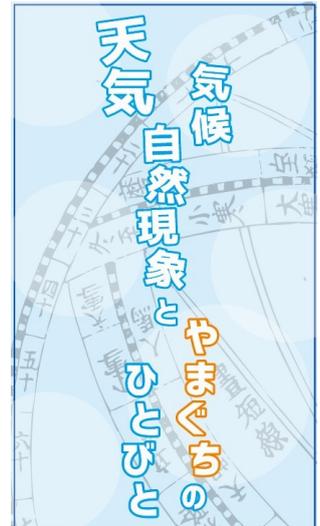


周防国天満宮風雨順時五穀成就神策都大夫菅原宿禰良種（小田家〈柳井市金屋〉護符304）



＊11

気候

②

天気と身近な信仰

《護符とは》

守護の霊符のことで、護身符・守護符・御符・神符・お守り・守札などともいいます。紙や木片などが用いられ、神仏の名や影像・経の要文・種字などが直筆あるいは版本で記されており、神璽(シジ)や宝印を押ししたりしたものです。この護符を持つことによって、符札の加持護念により加護を受けるといいます。祈祷の儀式にともなって作成される場合が多いようです。

用い方もさまざまで、戸口に貼り付ける方法(門守)、室内や神棚に供える方法、肌身につける方法(肌守)、腕や腰に結ぶ方法(腕守・腰守)、飲み下す方法、座布団の下に敷く方法(敷符)などがあります。

護符の種類としては、無病息災・家内安全・天下泰平・五穀豊穰・交通安全・合格祈願などがあり、魔除けを祈るものが多いほか、病難除け・雷除け・虫除け・災難除けなどがあります。

《柳井市金屋小田家の護符資料》

小田家は江戸時代の柳井津町(現柳井市)を代表する町人、商人であり、諸商い・絞油業・地主経営・塩田経営などで発展をとげました。そのため護符も、個人の健康や平安を祈願するものから、家の経営に関わるさまざまな祈願を込めたもの、また商売先や旅行先で受けたものまで、実に多様な「祈りのかたち」を知ることができます。

護符は同家の屋根裏にまとめて保存されていたもので、年号が記されたものはほとんどありませんが、江戸時代のものが多く含まれているようです。(『文書館ニュース』No.51より)

当館にはさまざまな護符資料が所蔵されています。護符には、人々が神仏に対してどういうことを願ってきたかが示されており、その願いは切実なものです。そこには日々の生活のありようが具体的にみえてきます。



大歳龍神社天気順行五穀成就祈啓太玉串
(小田家〈柳井市金屋〉護符472)

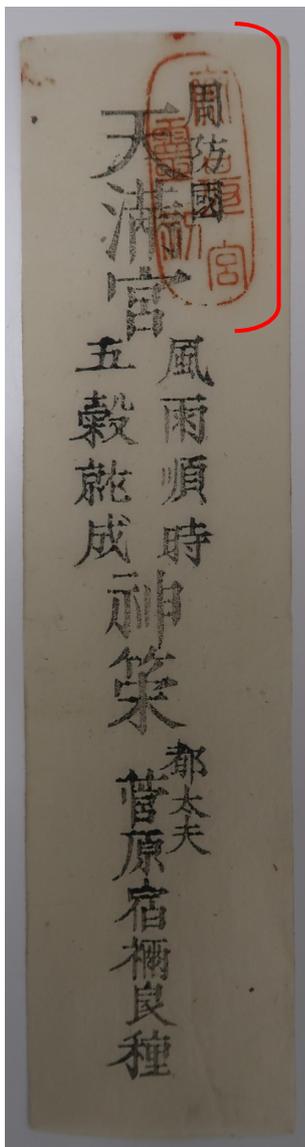
小田家(柳井市金屋)の護符資料は、文書館に約3,874点所蔵されています。

神霊のよりましとして、“大歳龍神社”・“太玉串”の語句が使われています。大歳神は豊作・豊年の神で、龍神は気象や海流の流れをつかさどっており、全国的に庶民にも身近な神様として祀られています。この護符は、小田家の近くにあった大歳社のものかもしれません。

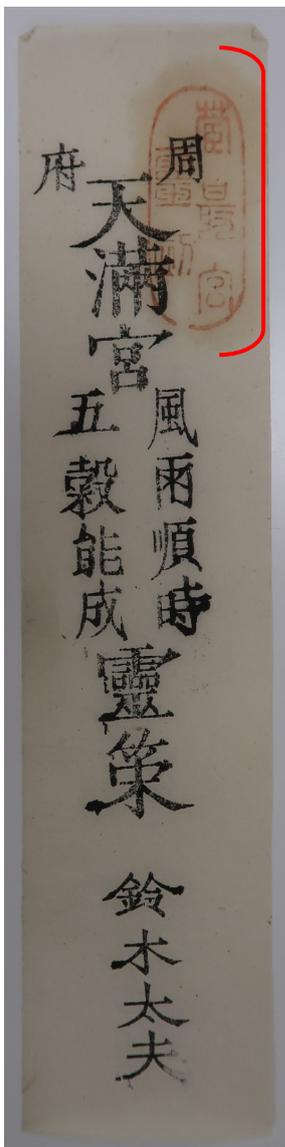
《天気に関連した護符》

写真①・②は、“風雨順時”、雨や風などの天候が滞りなくめぐり、“五穀成就・五穀能成”、五穀がよくできるよう願う護符です。写真③は、“風雨順時”と“昆虫退散”、五穀がよくできるよう田畑の守護が願われています。天満宮では五穀豊穰を願う祈祷が行われていたようです。

“鈴木太夫”や“都太夫菅原宿禰良種”、“都太夫”は、『角川日本姓氏歴史人物大辞典35山口県』をみるに、江戸時代の天満宮祀官鈴木衛門菅原実信家や同じく天満宮祀官の都治部菅原朝雅家などの天満宮祀官の流れをくむ家に関する宮司かもしれません。宮司が祈祷の儀式を行い、天満宮で作成されたことがうかがえます。

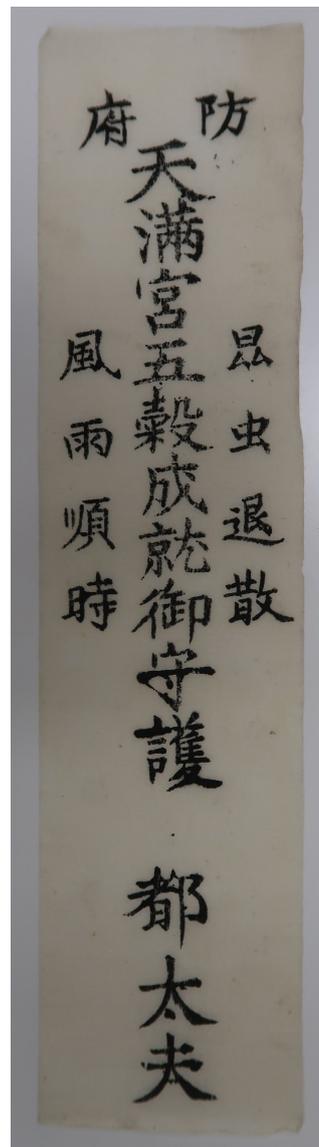


斎霊最初宮



菅霊最初宮

※写真①・②には、“斎霊最初宮”または“菅霊最初宮”の印が押されています。これは最初に菅原道真公を祀った神社ということを記しています。



写真① 周防国天満宮 風雨順時五穀成就神策 都太夫菅原宿禰良種 (小田家〈柳井市金屋〉護符304)

写真② 周防国天満宮 風雨順時五穀能成靈策 鈴木太夫 (小田家〈柳井市金屋〉護符305)

写真③ 防府天満宮 五穀成就昆虫退散風雨順時御守護 都太夫 (小田家〈柳井市金屋〉護符306)

《防府天満宮(周防国天満宮)》

防府天満宮(周防国天満宮)は菅原道真と、道真の遠祖である天穗日命・武夷鳥命・野見宿禰を祀っています。古くは松崎天神と称しており、道真が逝去した翌年には創建されていたことから、日本最初の天満宮とされています。

主祭神の菅原道真には農耕・正直・至誠・冤罪を晴らす・学問・芸能・和歌・蓮歌・厄除け・武芸など、さまざまな御利益があります。